

## 『大声で伝えた言葉』 ヨハネ12:44-50

12:44 イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、

12:45 また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。

12:46 わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。

12:47 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があっても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。

12:48 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。

12:49 わたしは自分から語ったのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったのである。

12:50 わたしは、この命令が永遠の命であることを知っている。それゆえに、わたしが語っていることは、わたしの父がわたしに仰せになったことを、そのまま語っているのである」。

### ●序論

聖書は、神を信じることについてこんな風に語っています。

ヘブル11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

今日お読みしたヨハネの福音書で、「イエスさまが大声で言われた」とあります。ここにはあらたな招きの言葉はありません。むしろすでに信じている人、それかどうか不明な人々に向けて、その信仰の内容について確認するかのようになっています。

すでにイエスさまは、語るだけ語ってそこを立ち去り、身をお隠しになったとあります。

12:36 光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。イエスはこれらのことを話してから、そこを立ち去って、彼らから身をお隠しになった。

そしてこう聖書は続けます。

12:37 このように多くのしるしを彼らの前でなしたが、彼らはイエスを信じなかった。

信じない者たちがいた。

このところは、だから「信じなさい」というチャレンジではなく、すでに告げられた信じることの内容をここで、はっきりさせるために語りだしているのです。

### ●本論

#### I. 信じることを考える

:44-45「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。…

つまりイエスさまを信じる者は、すなわち神さま信じること。イエスさまを見る者は、神さまを見るのだ。つまり神さまを信じるのにはイエスさまを、神さまを見るのにはイエスさまを見ればよいということです。

そのままイエスさまは神さま…という風に告げているのです。

このことは、当時のユダヤ人指導者たちの癪に障ることでした。神と自分を同等のものとしているなんて、神を冒瀆することだ…と。

すなわち、彼らは本当にイエスさまが、神から遣わされた独り子として信じることも認めることもしなかった…ということです。

さらにイエスさまは、ご自分を信じる者たちにも、こう告げたとまとめています。

12:46 わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。

イエス間を信じることは、すなわちイエスさまとともに歩むものとされることです。そうしてその歩みは「やみのうちにとどまらないようになる」のです。

その歩みを通して、光のうちに歩む成長を経験するのです。

## II. 裁きについて考える

12:47 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があっても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。

ここにイエスさまが来られた目的がはっきり示されています。

イエスさまは、人を支配しコントロールしようとするのではなく、また言ったとおりにはしないからと言ってさばくのでもありません。

わたしたちを救うために来てくださった、それが福音のメッセージです。そしてイエスさまを遣わしてくださった神さまの思いです。

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

イエスさまが来られた目的には、「滅び」を強調することではなく「滅びないこと」、そして「救い」を語り、「永遠の命」を強調して語るのです。

そしてつづけてこうも言われます。

12:48 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。

イエスさまご自身はその人を裁きません。けれども終わりの日に、人は自分に語られてきたイエスさまの言葉への自分の応答で裁かれるということ…です。

救いは、神さまとの関係の回復です。そのために、神さまの側からひとり子イエスを通して、わたしたちに手を伸べてくださいました。だから今日、聖書は語ります。

12:48 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、…

それは終わりの日の出来事です。この地上では、わたしたちは、回復をいただき、神さまとともに生きるチャンスをつまみ「恵みの時」をいただいているのです。

だから、これまでも何度も聞いてき他、聖書の言葉を覚えましょう。

2コリント6:2「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」

### Ⅲ. 言葉について考える

当時、ユダヤ人たちは父なる神なら認めるけれども、イエスは認めないという態度をとっていました。

彼らの理屈は、自分たちの方が父なる神の御心に沿っているという風に、神の律法を盾に、周囲の人々を裁き、またイエスさまをもさばきました。

そうすることで、実際には、神をも、神さまからの恵みをも拒んでいたのです。そんな彼らを前にイエスさまの主張がこうでした。これも、これまで語られてきたことのまとめですね。

12:49 わたしは自分から語ったのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったのである。

12:50 わたしは、この命令が永遠の命であることを知っている。それゆえに、わたしが語っていることは、わたしの父がわたしに仰せになったことを、そのまま語っているのである」。

簡単にいうと、イエスさまの語られることは父なる神さまの言葉そのものであり、そのことばで神さまご自身とつながることができる…。神さまとの関係が回復される。

それが永遠の命、今のわたしをも生かすいのちそのものなのだということです。

その具体的なありさまこそイエスさまです。イエスさまは「わたしは、さばかない。わたしがきたのは、この世を救うためである。」と語ったのです。

その本意をシンプルに伝えるなら、神さまの言葉も、イエスさまの言葉も一致して「あなたを愛している」と伝えている。

その愛の中に、わたしたちを迎えたいと語り続けてくださっているということです。キリスト教というと、立派な教えの中に生きるという風に思う方も多い。…窮屈なイメージが先行しているかもしれません。

わたしも教会にしながら、そう感じていて、ずっと距離を置いていました。

そんなある日、大きな挫折を通して、わたしは神さまの前に素直になれる時があったのです。

ああ、わたしはただ愛されている。神さまがわたしの何も制限せずに、ただ愛してくださっていると語られた、そしてわかった、そんな経験でした。

2千年前のあの時代も、そして今も、イエスさまの言葉はその思いと一致して私たちにに向けて語られます。その言葉を素直に受け取ることができるように、聖霊なる神さまがわたしたちに気づきと諭しを与えてくださることを祈りましょう。

### ●さいごに

偽物の情報で、誤解や偏見、敵意や憎しみを生み出し、さらには暴力につながる。

今ある各地の戦争の裏では、国家レベルでの情報操作などもあります。わたしたちが耳を傾げるべきは、こういう時代をもよく知り、それでも変わらずに、わたしたちを神の愛と命に結び付けようと語り続けられている聖書の言葉に耳を傾けることです。

どんなに社会が世界がわるくなくても、神さまの言葉と真実は変わりません。神さまの愛は変わらない。それが聖書があらわす真実です。なんといたってもそこには、イエスの十字架という愛の裏付けがあるのです。

ヨハネ3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。そしてそのことをイエスさまは大声で今のわたしたちにも伝えているのです。

：44-46「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。

12:46 わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。

今の時代に生きるわたしたちは、さまざまな言葉に囲まれています。

そして実に多くの不安要素や悩み、そして誤解やざわつく思いが届きます。まさしくいつの間に暗闇の思いにとらわれてしまうこともあるでしょう。

だからイエスさまに目を向け、イエスさまの十字架の愛に心を向け、イエスさまを信じて、その言葉をいただいて、光の中を生きることを、イエスさまのように、声を大にして皆さんにお伝えしたいのです。

イエスさまの言葉をリビングバイブル訳で

12:46 わたしは、この暗い世に輝く光として来ました。わたしを信じる人がだれも、もはや暗闇の中をさまようことのないためです。